



ぶどうの枝

2018年
夏号

天が地よりも高いように… (8)

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

今回は、埼玉県狭山市にある入間川教会での、忘れ得ぬ訪問者の二人目の方とのかかわりを記させていただきました。ある日曜日のこと、教会の2階にある牧師住宅の玄関を出て、階下の1階に降りた直後でした。教会を訪ねて来た初老の男性と鉢合わせをし、この人は、唐突にこのように話し出したのです。「牧師さんですか？いやあ、わたしはもう駄目です！」そこでこの方と話をしたところ、「自分は天涯孤独で、住む所もない。自分は胃がんにもなり胃を摘出している」というのです。彼の話によれば、この方はかつて会社の経営者であり結婚もしていたそうですが、今は奥さんと別れ、独り身となったという。その時以来、入間川教会員のご理解と家内の助けを得て、約3ヶ月くらいだったと思いますが、この方を教会で世話をすることになったのです。

しかしお世話をさせていただく中で明らかになったことは、この方は英語が堪能で、インテリではあるものの、アルコール依存症であることが分かりました。教会を根城に、この方は求職活動をし仕事につきま。しかし金銭が手に入ると、アルコールに手を出しそれに溺れてしまうのです。酒を飲むたびに、ずっと年上の方ではありましたが、私は何度となく叱りつけました。もう私の手には負えない、この方のために祈りました。私にとって最大の武器は祈り！「神様、大畑さんを酒の虜から解放してください。そして健やかに、生きる力を与えてください」。しかし、祈っても、祈っても彼に大きな変化は見られない。しばらくして彼には青森に母が実在していることを知り、連絡を取りました。するとそのお母様が「それでは息子に青森に帰ってくるように言ってください」というお言葉を頂き、青森に帰っていただくことになりました。このとき彼を狂わせてしまう酒を断つための断酒入院を勧めました。青森に帰られた大畑さんは忠実に入院されて治療を受

けました。それ以来、ずっと文通で連絡を取り続けました。

その手紙の一つに、神様の導きを実感する内容のものがありません。「主のみ名を賛美いたします。…先生からいただきましたSDA安息日学校教課(教会の聖書テキスト)を読み調べているうち、

ルカ22:42『父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』…苦しみもだえ、切に祈って下さったイエス様、そして『なぜ、眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていない』と戒めて下さったイエス様、十字架にかかることを知る前のことゆえ、アルコール依存症の私のために、私のためにすでに祈って下さったのだと思った時、とめどもない涙が流れ、『ああ主よ、わが罪を許したまえ！』と思わず叫びました。それ以来、今、私はアルコールから解放されておりま。…」手ごわいアルコール依存から大畑さんは解放されたとの通信でした。この方は、私が助けてもだめでした。また病院へ断酒のために入院したもののそれでもだめでした。しかしこの方が、今も生きておられるイエス・キリストを見上げ、キリストに心からの叫びをあげたときに彼はアルコール依存症から解放されたのです。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」(イザヤ書55:8,9節)



安息日礼拝の前に
講壇の前に立つ磯部牧師

「生命の黄昏」

2018年3月17日千葉キリスト教会講演会『日が暮れるまでに』（午前の部）から

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

1. 生命の黄昏

こんな言葉があります。「いつまでもあると思うな親と金」。皆さんのご両親様は今もご健在でしょうか。私には四人の親がいます。二人は生みの親、あと二人は育ての親です。その生みの親の父は今から20年ほど前に亡くなりました。次にお金、お金を手にしてもなくなることの早いこと、早いこと。私の場合、財布の中に1万円を入れると、あっという間に小銭に変わってしまいます。まさに「いつまでもあると思うな親と金」ですね。

ところで今ひとつこういう言葉も言えると思います。「いつまでもあると思うな人の生命」。若いからと言って、私どもの命はいつまでもあるとは言えません。人の命を脅かす筆頭といえば「がん」でしょうか。二人で一人はがんになるという。しかもこの「がん」は必ずしも年功序列ではない。

また「ぽっくり」という最期もあります。これも老衰で「ぽっくり」というならまだしも、若くしてそうなるケースもあります。先週、歌手の北島三郎さんの息子さん、51歳で亡くなられ、お父様の悲痛な姿が放送されていました。また事故や災害に遭遇して命が縮められることもあります。

今週の日曜日は3月11日。今から7年前の、3月11日を誰が忘れられましょう。この日の地震と津波の自然災害で死者15,895人・行方不明者2,539人・震災関連死3,647人・避難者73,349人と今週の新聞には報告されました。この震災前には全く元気で普通の生活をしておられた方々が、小さな子供から高齢者の人たちまで、年齢に関係なく一瞬にして変わってしまいました。この千葉県でも21名が亡くなり、2名が行

方不明、何と負傷者は258名。私たちの命、一寸先は闇です。ここで天の啓示の書物である聖書の言葉を紹介します。

ヤコブ4:13~15「よく聞きなさい。『きょうか、あす、これこれの町へ行き、そこに一か年滞在し、商売をして一もうけしよう』と言う者たちよ。あなたがたは、あすのこともわからぬ身なのだ。あなたがたのいのちは、どんなものであるか。あなたがたは、しばしの間あらわれて、たちまち消え行く霧にすぎない。」

私たちは人生の将来設計を考えるかも知れません。20代で就職と結婚をし、30代で子を2、3人の子を儲け、そして40代でマイホームを築く。

チャンスがあれば50代には会社の管理職につき、60代までには老後を考えしっかりと貯蓄する。そして65で引退し、あとは夫婦で楽しく老後を過ごす。こういう生活設計を立てる人があるかも知れません。しかし人生は、このような筋書き通りにはいかない。「生命の黄昏」がある。「黄昏」とは夕暮れのことです。

3 ページに続く



神の御子イエス・キリストは、一つ、次のような興味深いたとえ話も語っています。ルカ 12 :16~21「ある金持の畑が豊作であった。そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが』』と思ひめぐらして言った、『どうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまひ込もう。そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食べ、飲め、楽しめ』。すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか』。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」と。

このたとえに出てくる、金持ちは「愚かな者よ」と言われます。本当に彼は愚かな人なののでしょうか？彼は将来設計を見事に考えた人。ところが彼に計画ミスが一つありました。彼は自分の生活設計の予定表を立てる天才。しかし大切なことを見落としていました。それは自分の命の計画です。自分の命がどうなるのか、これが計算に入っていない。実は、私どもの多くはこのたとえの男と同様の思いで生きてはいまいか。つまり人生の終わりを計算にいれない。しかし先ほどお話しましたように人生の終わりは老若男女の別なく必ずやってくる。私どもは生きている間の将来設計をする。しかし死後の将来設計までは考えていない。

実は、“聖書”が書かれた究極の目的は、私の人生が閉じた後、私の魂がどうなるのか？ということ。つまり永遠の将来設計を提供することが、聖書が書かれた目的だといっても過言ではない。ここが他の書物と、聖書という書物の大きな違いなのかも私は思います。

果たして皆さんはご自分の「生命の黄昏」

をどう受けとめているのでしょうか？「人に命の望みなどはないのだから、そんな不確かなことを考えるよりも、今をどう生きるかという以外は考えない」という人がいます。もちろん私たちは今を生きているのですから、今の生活から離れて生きることは不可能。ですが私が申し上げたいことは、人は永遠を考慮に入れる可能性もある。これを見据えて、今をどう生きるかを提案したいのです。と申しますのは、私たちに命を与えてくださった天の神様（人を創られたお方）にはそのような思いがあるということ。私には聖書を通して知ったからです。

2. 永遠の命への提案

神様の思いを知ったヨハネというキリストの弟子がいます。このヨハネの書いた聖書の一節を見てみましょう。ヨハネ20:31「しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。」ここに「イエスの名によって命を得るため」と言う言葉があります。ここでいう「命」こそ、実は「永遠の命」を指しています。実は驚くなかれ、聖書には「永遠の命」は19カ所、「永遠のいのち」は16カ所、「永遠の生命」は9カ所と、たくさん書かれています。合計で44カ所。永遠の命とは本当にあるのでしょうか？これを証明することは出来るのでしょうか？また人は永遠の命をどのようにして得ることができるのでしょうか？

4 ページに続く



私達に訪れる人生の最後の現実。それは「人の死」です！私は人生を見つめ始めた若き日、「人間とは何者なのか？」とか「人生に何か目的はあるのか？」「この世界はどうなるのか？」ということを考えるようになりました。そしてこの問いの解答を求めて、哲学書などをあさって過ごした時期がありました。ある哲学者は「生がある時、死はなく、死が来る時に、もはや生はない」などと、当たり前のことを言っている。そこには「死」について何の解決はなく、人生の問題を解決してくれるものはこの世にはないと私は思いました。

こうして人生の探求を半ばあきらめ、面白おかしく生きる道を選び始めたのでした。こんな時、私は、聖書に出会いました。聖書をお書きになられた天の神様を知りました。神様は、全世界の人々に命を与えられたお方です。

イザヤ45:18【口語訳】に「天を創造された主、すなわち神であって／また地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない。』」と書かれています。このように聖書の中に示されたお方が、私に生きる意味や目的を教えてくださいました。そして人間が最後に行くべきところについても教えてくださいました。「生命の黄昏」ではなく「永遠の命」があることを知ったのです。

人の死の確率は100%。人は生まれた瞬間から死と向き合う。この「死」を解決できるかどうか。この死の解決があってこそ「永遠の命」の希望があるのです。

この死生観について、聖書を書いた一人、パウロの言葉を見てみましょう。

フィリピ 1 章21節に「わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです。」とあります。パウロは、イエス・キリストに出会って後、人生観がまったく変えられた人です。彼にとって死の捉え方は実に明る

い。彼によれば、生きることはキリストのために生きることで意味がある、また死ぬこともキリストとお会いできるので利益だという。

ところで近年、TVなどでは、人は死んでも決して本当には死んでいない。ドラマの中にはありますが時々、向こうの世界から時々この世界に姿を出してこの世の人と会話をするという場面などがよく登場します。こうして死を安易に受け入れるように視聴者に教え込んでいます。

しかし日本人なじみのあるお釈迦様でさえ、死について何を言っておられるかは、意外と知られていません。お釈迦様は死について何も語っていません。死について確かに語る事の出来る方は、本当に一度死んだことのある経験を持ち、今は生きているお方ではないかと私は考えます。事実、そのようなお方がおられると聖書は記録しています。そのお方とはイエス・キリストです。



この写真は仏舎利塔です。仏舎利塔は、お釈迦様のお墓のことで、お釈迦様が今でも死に続けていることを私たちに伝えています。なぜならば、そこにはお釈迦様のお骨が分骨されていると言われているからです。

5 ページに続く



3. 復活と再臨

一方、キリストは十字架にかかって死なれましたが、三日の後に、墓から復活されました。ここでキリストの約束を見てみましょう。「イエスは…言われた。『わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。』」（ヨハネ 11:25）。このお方は、一度は死なれましたが、死から復活され、天に昇られ今なお生きておられる。このキリストゆえ、世界の終わりにキリストは再臨(キリストが再び来ること)なせることができる。そして聖書は、この再臨の時によみがえる！人々があると約束します。

聖書には、この復活の主イエス・キリストが人の死について身をもって示された驚くべきこんな記録があります。ある日のこと、イエス・キリストの元に、イエス様を慕ってやまない二人の姉妹がいました。彼女たちにラザロという弟がいました。この弟が重い病にかかり、まさに死ぬばかりの状態。それで姉達は人を送ってキリストに「貴方が愛しておられる弟ラザロが病気で苦しんでいますから是非来てください」と伝えます。イエス様が来てくれてその体に手を添えてくだされば弟は助かると考えたからです。親がいないこの姉妹たちにとって真に頼れるのはイエス・キリストだけでした。

ところがキリストはこの場面で「この病気は死ぬほどのものではない」と言われて、すぐに彼女達のもとに行かれなかった。ラザロが病気であると聞いて後、二日後、唐突に弟子達に「わたしたちの友ラザロが眠っている。わたしは彼を起こしに行く」と言われました。これを聞いた弟子達は「主よ、眠っているのですしたら、助かるでしょう」と言いました。するとイエス様は彼らに言われました。「ラザロは死んだのです」と。聖書によれば、キリストによれば人の死は眠りであるということです。眠りであるということは目

覚めがあるということになります。実に聖書は死を眠りに置き換えている。皆さんにとって睡眠は心地良いことでしょうか。それとも怖いことでしょうか。

冬山で遭難するとき、「眠ってはいけない」と言います。何故ですか。それは体が冷えて心臓が止まってしまうからです。もし私たちが眠る時に、明日は目覚める保証がないとしたなら安心して眠ることが出来なんでしょう。目覚めがあると信じているから眠ることは楽しい。しかし非常に興味深いことは、死は眠りのようなものであることをここでキリストが弟子達に教えられたということです。さてキリストの一行はラザロの墓の前に行きました。ラザロが死んで墓に置かれてすでに四日もたっていました。イエス様は、悲しみの中にある二人の姉と共に、ラザロの納められていた墓に行き、激しく感動し言われます。「彼をどこに置いたのか」と。人々はイエス様を、ラザロの死体を安置する墓に連れて行きました。その時、キリストは「石を取り除けなさい」と言います。そして感謝のお祈りをささげた後に、キリストは大声で「ラザロよ、出てきなさい！」と呼ばわりました。すると死人ラザロが手足を布でまかれ、顔も顔覆いで包まれたまま、出てきたのです。イエス様は「彼をほどいてやって、帰らせなさい」と言われた。

皆さん、キリストが再び来られるとき、実はラザロに起きたことと同様のことが起きます。墓に眠る人々が目覚めるというのです。この聖書の約束を信じ、それを心に留めるとき、私たちは死別の悲しみや、死の恐れが平安に変わります。

6 ページに続く



ここで以前、東京大田区にある大岡山教会で牧師をさせて頂いた時に会った人ですが、Kさんという方のことを紹介しましょう。Kさんは、ある土曜安息日（礼拝日）にクリスチャンの奥様と共に教会に来られました。まだ40代後半のご覧のとおりハンサムな方でした。

ところが、このKさんに初めてお会いした時、私は直観的にこの方のお身体の状態が分かりました。肝臓がやられているな。顔が黄ばんでみえた。いわゆる黄疸症状。このKさんは数週間後、ピタリと教会に来られなくなったので、Kさんの奥さんに連絡をとりました。病院にご入院なさったとのことでした。Kさんは末期の肝臓がんでした。Kさんはお酒に強くなかったのですが、大企業の優秀な営業マンで、仕事柄、お酒を飲むことが多かったようです。これに仕事のストレスもあったのかも知れませんね。それで私は、早速、Kさんの入院先の病院に駆けつけました。

ところで奥さんが言われるには、就寝前になると、ご主人の体がブルブルと震えるというのです。そして「俺、どうなるんだ」と言う。

そこでKさんの奥さんに、私は天国についての聖句やキリスト再臨の聖句、希望に満ちたいくつかの聖句を読んでさし上げるようにアドバイスさせて頂きました。

しばらくして、Kさんの奥さんが、顔を輝かせて「牧師さん、主人の震えが止まりました」と。そして、「あなたこの神様の約束を信じる？」と尋ねますと「ああ、信じるよ」と答えた。Kさんは、間もなくお亡くなりになりましたが、キリストを深く信じて、キリストがその再臨の時に復活させてくださるという約束を受け止めて、しばらくの眠りに着かれたのです。永遠の命という希望を持たれたのですね。

ここでKさんの心の中で起こったことを、話しておきたいと思います。これはKさんが、亡くなる直前に奥様に語られた内容です。Kさんが最後に奥様に語った言葉。

「夢を見たんだよ。群衆がぞろぞろと山の方に向かって歩いていて。その先頭に一人だけ他の人と異なった白い着物の人がいた。これからその人の話をみんなで聞くことだろう。僕はその人はきっとイエス様に違いないと思って走って行ってその人の着物にさわった。さわった瞬間にぶどうの木への聖句を思い出したんだよ。『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。わたしにつながっていなさい。わたしにつながってなければあなたがたは何一つ出来ない。…』（ヨハネによる福音書15章）という句だよ。『つまり、こういうことだよ。イエス様につながってなければ僕らは枯れ木と同じだということなんだよ』…『聖地（＝天国のこと）とはこんなに素晴らしい所か』」と言い、…しばらくしてKさんは息を引き取られたという。（K氏の追悼集より抜粋）

皆さん、今でもこのKさんのように、私たちもある条件のもとに希望の最後を迎えることが出来ます。聖書の中に、希望に満ちた福音があります。ここでそのポイントを整理したい。①死は人生の終わりではない。②キリストが来られる時に復活する人がある。③復活した人々は空中でキリストにお会いして愛と平和の天国に招かれ永遠の命に生きる。

これが聖書の教える生命の希望です。しかし私はここでもう一つ、どうしても説明を加えておかなければなりません。この死から復活して「永遠の生命」と共に天国に入れるのは、どんな人でもそうなるのかということ決してそうではない、ということです。

7ページに続く



もしどんな人でも天国に入ったならば、天国は決して愛と平和の維持は出来ません。例えば争い好きな人が天国に入ったならばどうなりますか。ヒットラーのように戦争が好きで好きな人が天国に入ったならばどうなるでしょうか。天国が天国にはならない。そこで私たちは天国に入れていただくために、この世で準備する期間が与えられるのです。ここに人生の目的があります。それは真の神を知り永遠の世界に入る準備をすることです。

では人は天国の住民になるために何が必要なのか。次の聖書の言葉を見てみましょう。
I テモテ6:17～19【口語訳】「この世で富んでいる者たちに、命じなさい。高慢にならず、たよりにならない富に望みをおかず、むしろ、わたしたちにすべての物を豊かに備えて楽しませて下さる神に、のぞみを置くように。また、良い行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、こうして、真のいのちを得るために、未来に備えてよい土台を自分のために築き上げるように、命じなさい。」

ここで一番必要なこと、一言で表現するならば、それは天にふさわしい品性を持つことです。金銭欲に縛られている人が、その欲から解放される。

高慢な人が謙遜になる。神様を無視している人が神様に望みを置く人になる。良い行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、そういう人になること。ただし、ここで大切なことは、私の品性を変えられる法則を知ること。こういう話をすると、ある方々は、それならば私はそこらのワガママなクリスチャンに比べるならば自分はましだ！と言われるかもしれませんがね。

しかし私たちの目指すべき目標は神様のご品性に似ることです。その標準は高い。しかし心配しないでほしい。神様は、私たちの品

性を変えるために実に忍耐深く、私たちを親切にコーチしてくださいます。

ここで、自分は天にふさわしい品性を持っているとお考えの方はおられますか。手があがらない？それは皆さんの心が健全であることの証拠です。良かったです。ここで手があがるとむしろ危険です。

ですが聖書には素晴らしい約束があります。神は心からイエス・キリストを信じる人を永遠の命を持つ者として導いてくださるということです。なぜイエス・キリストを信じる人に永遠の生命があるのでしょうか？引き続き、午後の講演会にもご出席ください。

では最後に、希望の聖句を紹介して今朝のメッセージを閉じることに致します。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16【口語訳】)

午後の演題は「世界の黄昏」です。これについては次号とその次の号に連続で記載いたします。

2018年3月17日(土)千葉キリスト教会講演会『日が暮れるまでに』にて講演された午前の演題「生命の黄昏」を今回の「ぶどうの枝夏号(第11号)」に掲載させて頂きました。

同日の午後の演題「世界の黄昏」は、「ぶどうの枝秋号(第12号)」、「ぶどうの枝冬号(第13号)」に、連続で掲載させていただきます。

「神との出会い」

千葉キリスト教会 佐久間 満

私はバプテスマを受けたばかり、多少慣れてきました。聖書の方も段々と慣れ親しんで来ました。「神との出会い」と申しました今日のタイトルですが、「神との出会い」一言で言えば簡単に済むはずなのですが、私は5行ぐらい有ればそれで終わりかなと思います。ところがそうはいかないと言う事です。そして前号の「ぶどうの枝」に証しを掲載しました。それに重複すると思いますが、ほんの少し変えました。

では始めます。私の故郷は福島県田村郡三春町と言う所です。三春は天然記念物として有名な、日本三大桜の滝桜として観光バスが訪れる今では有名な場所で有ります。この三春町には10歳までしかいなかったのですが、私の故郷として脳裏に残っております。色々な街並み、懐かしいですね。今この年になって見て思い出すと、やはり故郷は良いなと感じます。そして故郷の思い出は本当に素晴らしいものだと思っております。私の家族、佐久間家には兄弟が7名おりました。男4人、女3人で私が一番末っ子です。私が末っ子として甘やかされて存在感が有ったのか無かったのか知りませんが、そのように感じておりました。

実は私の父と言うのは、私が4歳の時に死に別れました。父は新聞販売店を三春で行っておりました。昔は総合販売店でした。毎日、朝日、読売など数々の新聞を一挙に引き受けて販売しておりました。この仕事に携わっていた父親は相当大変だったろうと思います。何しろ駅まで自転車で新聞を朝早く取りに行く訳です。その仕事は子供のころを考えてみたら普通じゃ出来ないなと思っておりました。今では車が有りますから、車で行けば積めます。昔は坂道が有っても自転車だったんです。そう言う事を考えますと、やはり父も早死にしたのかなと考えさせられました。私は新聞販売店は朝、晩と忙しい日々だったと思います。それを思い出さるのですが、お店の前には自転車が一杯並ぶんです。そこへ、まだよちよち歩きの私が井ぶりを持って歩いていたら自転車が沢山有っ

たので、その自転車にぶつかりまして、私は井ぶりの欠片でここを切ったのです。それを夜病院に運んで頂いた記憶が有るんです。それは4歳の頃だと思うのですが記憶が有りました。そう言う事をして、父は忙しい仕事に携わって来たのではないかと思ひ、私もそれなりに忙しさを感じました。そして、長男が跡取りをして新聞販売店を継いでおりました。

その後私たちは新聞店を閉鎖しまして、私が10歳の小学校6年生の時、東京へ全員が転居することになり出て来ました。東京は杉並の阿佐ヶ谷で東京の生活に入りました。兄弟が私の面倒を見るようになり、中学・高校を卒業することが出来ました。これは大変嬉しく思いました。その高校を卒業する時に、私は昔から歌う事が好きでしたので、直ぐにハワイアンバンドの好き者同士が集まりバンドを作って、ダンスパーティーとかを催しました。そういう所に私も顔を出しまして好きな歌を歌っていました。

そう言う事で今でも歌が好きではないです。それからその当時の歌としまして私は特にラブソングが好きなんです。愛を込めた歌、これは本当に気持ちが良いんです。そして、この愛と言う事は神様に我々は多大な愛を頂いている訳です。満ち溢れている訳です。ですから愛には幾つもの愛があるでしょう。神の愛と言うのは人を許せる愛なんです。これが私達にはなかなか出来ません。神でなければ出来ないと私は感じられました。素晴らしい愛だと思います。皆さんもそれぞれ愛に満ち溢れていらっしゃるでしょう。これも家庭に持って帰る、素晴らしい家庭を築くとか、皆さん幸せな日々を送って頂きたいと思うのです。

9 ページに続く



そうしている間に時は流れまして、私は昔から川の流れに魅力を感じるのです。時は川の流れのようと言う言葉が出てきてしまうのです。光陰矢の如しじゃないですけど、あつと言う間の川の流れ、素晴らしいものだと私は考えております。淀みがあるでしょうが、早い流れもあるでしょう。これを人生に例えますと、あつという間に私は現在、高齢者となりました。これが早いですね、今振り返るとイヤー何だろうと思います。後期高齢者社会、残るのは僅かじゃないかと、私は感じます。

こちらの若松台に越してきましたのは73歳の時です。この時、川崎より越して参りまして、JRは都賀駅だと言う事で「ここからバスで若松台か、大変だなー」と思いました。私この年になりまして住まいが少し引込んでいてもおかしくない年だなと感じられました。都会にいましたので田舎住まいも良いのではないかと思います。若松台の方へ越して参りました。その時に都賀には野中洋子姉が住んでおまして、そして木方夫婦もおり、千葉教会に通っている事を知っておりました。それは野中夫婦や、木方夫婦の木方姉からは10年前ごろから、「今日もまた何か送って来たよ、これは聖書だろう、また聖書か」でしたが、私は読む暇もなかったのです。残念ながら。

でもこちらへ越してきまして、野中姉に色々アドバイスを頂き、「都賀のカラオケ店で毎月一回歌声喫茶を開いております。歌が好きだったら是非参加なさい」と言われました。私も暇でしたから参加しました。歌声喫茶と言えば昔懐かしいし、今でもその雰囲気が味わえることが良いんじゃないかと思いました。そこで出会ったのが栗山さん。栗山さんたちの主催で有ったと思いますが、それで通じ合う様になりました。その時にシャローム若葉でボランティアに活躍されていました。私もボランティアの中へちょっと手伝いとして入りまして、年一回のバザーの時に、値札付け、品物の整理等を手伝いしておりました。そうこうしているうちに「千葉教会にコワイヤーと言う合唱隊が有るよ。これは森先生と言う素晴らしい先生で、難しい曲を私たちに教えて下さっている。」と言う事でした。

昔から私は楽譜に目を通すことは余り無かったので、楽譜を見て歌う事は想像しなかったのです。ところが「プロになりますと楽譜の通りに歌っていかないと、ものにならないんです。私たちも同じです。」と言うようなことを先生がおっしゃっていたような気がします。楽譜は自分で読めるようにしなさいと言う事でした。しかし最初は見様見真似で、森さんの旦那さんの隣にいましたので良く教わりながら、かじりました。と言う事で毎週楽しい土曜日の午後でした。

そうしているうちに、また土曜礼拝に出なさいと尻を叩かれたような気もするのですが、ここへ朝早くから出てもいいかと思いました。それで礼拝にも出席するようになりました。その時の牧師さんたちのお話、そして聖書を通してのお祈り、また賛美することによって教会の中の礼拝堂の雰囲気が初めて聞いた時には、私は涙が出るんじゃないかと思いました。それだけ私は感じやすい人間だったのではないかと思います。そう言う事が有りまして、これは特に素晴らしかったと思います。素晴らしい牧師さんにお目にかかれて、また渡邊長老さんによって私は聖書を一緒に学ばせてもらいました。この方もすべて私が言ったことに対して、答えが即返って来るといふ、それが素晴らしい。こういう方にお会い出来たことは、良かったなー思っております。

10ページに続く



私の若い頃からたどって来た道の中で、誰か素晴らしい人に巡り合いたいなと思っておりました。でもそういう人は中々現れませんでした。そしてふと渡邊さんを通して思ってみると聖書を学んでいながら思い出しますが、素晴らしい人と言うのは私にとって神ではなかったのかなと考えさせられました。そして私の気持ち、バプテスマを受け聖書を学んでいくうちに私の心が開かれたと言うのでしょうか、荷がほどけたと言うような、野中洋子姉に言わせると「神に従って生きなさい、神にお任せしなさい、それが楽ですよ」と言う言葉を聞いたのです。確かに私もそういう気持ちになりました。誰かを信じることによって自分が救われるという事が分かりました。ですから今、神様と言うものは私の父親であると言っても過言では有りません。私は4歳の時に父親を亡くしていますので、父の愛情も知りません。ですが最終的にこの年になって、その愛を頂けるという事を感じました。神様は父親だと言っても良いのではないかと考えております。

そうしましてバプテスマを受けた後の私の気持ちはどうなっていくのかと、ふと考えました。祈りと信じる事、神の愛と御言葉を信じる事、これしかないのではないかと思いました。そして初めに神の道徳律法として十戒が私たちに与えられた。その十戒の前に善悪を知る木、これを取って食べてはならない、必ず死ぬと言われた最初の戒めだったのが、善悪を知る木これが最初の戒めだった訳です。その後、十戒として石に刻まれた戒めが私たちに与えられた。これはやはり、神が意図して私たちに愛に導こうとする一つの手段であったと私は解釈しております。そして私が思う所では、教会とは美しい音楽、教会音楽、讃美歌などが流れる所であると想像しておりました。一度か二度位は教会に行ったような気もしました。教会と言う建物の中の雰囲気と言うものは、多少は知っていた

つもりなのですが、素晴らしい讃美歌が流れる所であると自分なりに解釈しておりました。そして礼拝時の音楽の役割とした次の言葉が有ります。「信徒が一つの心になって交わることが出来る。音楽は聖なる目的のために用いられる。清く、気高く、高尚な事は人の思想を高める。魂の内に神への献身と感謝の念を起こされる。私たちが神に結ばれているならば、人は新しく創りかえられる。常にまっすぐな心を持って歩む人の目は、確かな神様を認めることが出来るようになるでしょう。」私は教会音楽として讃美歌を歌ってみたい気持ちが有りました。これが千葉教会との出会いであったと考えております。

私たちの人生に主の恵みが有りますように、神を信じ信仰に心を捧げて行きたいと思っております。私は神に出会ってから今現在、平安な気持ちで生活を送ることが出来ました。神に感謝致しております。アーメン。

2018年3月3日(土)の
「証しと賛美の集い」における
「証し」より
掲載させていただきました。



講演会「希望のメッセージ『永遠の命への道』」を聞いて

千葉キリスト教会 長老 渡邊 邦男

全日本マラナ・タ18講演会(5/7～5/17)のプレイベントの一つとして、千葉キリスト教会ではゴスペル歌手 ジョン・ルーカス氏とSDA日本教団総理 島田真澄先生を招いて「希望のメッセージ『永遠の命への道』」と題し、4月6、7日の二日間、合計三回にわたり講演会を開催しました。

このプレ講演会の目的は、若い世代に知られたジャマイカ出身のゴスペル王子ことゴスペル歌手 ジョン・ルーカス氏のコンサートに、これまで教会にあまり来たことのない人達をお招きして、本物のゴスペルを聞いていただくこと、そして、島田先生の講演会を通して「本物の希望」とは、いったい何なのかを知る機会とすることを目指しました。

その告知活動として、講演会前に行われたユース・ラッシュ(合宿による学生文書伝道)による告知、千葉教会では初めての試みとしてFacebook(SNS)を使っての告知、地域新聞による折込みチラシの配布、そして信徒によるポスティングなどを行いました。

これらにより、延べ人数は二日間を通して総勢200名近い講演会を開催することができました。また、教会員を除く総数は74名を数えました。

教会の使命は、地域の人々に福音のメッセージを伝えること、その福音とは「永遠の命への道」を示し、ますます混迷を深める国際社会にあって、真の希望を持つことを神様が現代の私たちに望んでおられることです。

久々に島田総理のメッセージを聞く機会

に恵まれましたが、ゴスペルとは言え、プロのコンサートの後での講演という、難しさの中での“熱い”メッセージは聴衆の心をとらえたと思います。

コンサート及び講演会の開催に当たっては、初めての試みも多々あって、現場において混乱もありましたが何とか無事に開催できたことは、実行委員をはじめ、多くの信徒の方々の働きの賜物と思います。この紙面を借りて感謝申し上げます。

この、マラナ・タ18の働きは5月の7日～17日の連続講演会が本番ですが、千葉教会ではこれは第一ラウンドであって、第二ラウンドは教団伝道局長 花田憲彦先生を招いての講演会、そして、クリスマスコンサートに至るまで、いくつかの講演会・イベントを通して福音を述べ伝え、「永遠の命への道」を示し、「本物の希望」を語り告げることです。

これが、いま、私たちに期待されている使命です。簡単なことではありませんが、祈りを持ってこれにあたる時、神は必ず助けてくださいます。

信仰と希望と愛をもって、神に従っていきたくと思っています。



『ゴスペルコンサートの感想』

千葉キリスト教会 永島 佳世子

ゴスペル王子としてテレビにも出演されているジョン・ルーカスさん(以下ルーカスさん)のコンサートとSDA日本教団総理の島田真澄先生による「希望のメッセージ」が4月6日、7日の二日間で計3回の講演が行われ、合計で301人(子供+求道者は123人)が参加しました。

求道者の中には近隣の方はもちろんですが、ルーカスさんのファンでチラシを見て来てくださった方や、就活中の学生さん、三育で働いていたことがあったけど、教会へ来るのは久しぶりですという方もいらっしゃいました。

ルーカスさんの歌声は、とても透き通っていて心に染み渡り、私にとって癒しの時間となりました。普通コンサートといえば、歌を聴くだけのことが多いと思いますが、ルーカスさんのコンサートは歌を聴く場面はもちろん、一緒に歌う参加型のコンサートという点が特徴的でした。

特に「ふるさと」はよく知っている歌ということもあり、皆さん大きな声で一緒に歌いました。

その他にも、ルーカスさんがその場で歌のメロディーを教えて下さり、私たちがその場で覚えて一緒に歌うという場面もあり、初めて聞く歌が多く、難しいそうと思ったのですが、それは一瞬だけでした。

身振りも加えて分かりやすく教えて下さり、すぐに覚えることが出来、参加された方の多くが、大きな声で一緒に歌いました。

2回目の講演の中で、特別に千葉教会の子供たちの為に歌を準備してくださいました。子供たちも最初少し緊張していた様でしたが、ルーカスさんが教えて下さる歌をすぐに覚えて楽しんでいた様でした。

ルーカスさんのコンサートは5月にも千葉教会でありますので、そちらも非常に楽しみです。



「チャーチ・コンサート」の恵み

千葉キリスト教会 コワイヤー 酒井 紀子

どのようなときも、わたしは主をたたえ わたしの口は絶えることなく賛美を歌う

詩篇34-2

今年(2018年)から、偶数月の第四日曜日午後2時より千葉キリスト教会礼拝堂にてチャーチコンサートが開催されています。第1回、第2回は盛況のうちに終える事が出来ました。出演して下さった方々は、皆様、教会で演奏できることを喜んでくださいました。

千葉教会の内外から、讚美歌を歌いたい人達が集まった聖歌隊「ヘブンズコワイヤー」は毎回出演しています。

【第1回チャーチコンサート「バッハの世界」(2月18日実施)】

プログラムは全曲バッハの作品で構成され、礼拝堂は“神の愛の光”に包まれバッハの世界となりました。バッハは、すべての作品の初めに祈りの言葉(「イエスよ助けたまえ〈Jesu Juva〉」)を記し、「神にのみ栄光あれ(Soli Deo Gloria)」の言葉で終結させています。まさにバッハの音楽は神の賜物です。

演奏して下さった方々、そして聞いている一人ひとりの心が祝福に満たされたひとときでした。ヘブンズコワイヤーの「主よ、人の望みの喜びよ」の清らかな賛美の歌声で閉会となりました。

【第2回チャーチコンサート「トーンチャイムの響き」(4月22日実施)】

コール宙(そら)の5人のメンバーによるトーンチャイムの演奏は、天使の鈴の音色でとてもやさしく清らかでした。ディズニー・メロディー、アヴェ・マリア、カノン等全13曲の見事な演奏は、リーダー斎藤京子さんのトークも加わり、会衆一同を魅了しました。

また「トーンチャイムのどの一本のチャイムが欠けても音楽は成り立たないと同様、神様にとっては私たち一人一人が大切な存在である」と分かりやすく、愛あふれた根本先生のメッセージ(Iコリント12:12から)を聞き、平安な気持ちに満たされました。ヘブンズコワイヤーの「祈りの園」他2曲の賛美でコンサートは閉じました。

第3回以降の予定は下記の通りです。皆様のお越しを心よりお待ちしております

第3回 6月24日(日) 14:00開演

「室内楽の楽しみ」

第4回 8月26日(日) 14:00開演

「美しきフルートの調べ」

第5回 10月28日(日) 14:00開演

「菱沼あけみメゾソプラノリサイタル」

第6回 12月23日(日) 14:00開演

「クリスマスコンサート」



「コール宙」の皆さま

御言葉を心に蓄える／神様の見ている景色

セブンスデーアドベンティスト教団伝道局青年部文書伝道部スタッフ

千葉キリスト教会 合宿リーダー 田中 野愛

2018年春2月と3月のユースラッシュはリーダーとして参加させて頂きました。その中でも、3月の千葉のユースラッシュは私が高校卒業後に学生伝道師をさせて頂いた千葉教会で開催されました。

懐かしい教会員の皆様にお会いし、教会員の皆様が神様のため、文書伝道に励む青年たちのために心一つにして奉仕しておられる姿を見て、心から感動し、神様に感謝する日々でした。祈りをもって、お食事のサポートや日々の送迎、献品や献金、励ましの言葉などなど皆様からいただくご支援とご協力のおかげで3週間のユースラッシュを走り抜くことができました。この場をお借りして、改めて千葉教会の皆様には心から感謝申し上げます。

千葉の合宿で心に残った出会いがありました。その日は、必死に走ると最後の訪問で素晴らしい出会いが用意されているという、「ラストドア」を祈って進んでいました。一緒に訪問している初参加の高校生と一緒に訪問終了の1時間前程から、それまでよりもさらに猛スピードで走っていましたが、断られ、断られ、会話はできても本を買ってはもらえません。

それでも、ラストドアを期待して走る時は「素早く断られることで、神様が出会わせたいと願っておられる人の場所により早くたどり着くことができる」と、自分がユースラッシュに参加者として参加したときにリーダーから教えてもらったことを共有し、「絶対に神様は素晴らしい出会いを用意しておられるよ」と参加者を励まして心の中で神様に祈り続けていました。

そして、文書伝道終了の時間が迫ったその時、遂にラストドアにたどり着いたのです。玄関先に出て来ていた年配の女性に挨拶してみると、ポストを確認して玄関の鍵を開けて家の中に入ろうとしていたところだったと話してくださいました。

本が好きで、昨年旦那さんを亡くされて寂しく暮らしているというその方は、私たちの話を笑顔で聞いてくださり、最終的には7冊の本を買ってくださいました。そして最後にお祈りもすることができたのです。

リーダーとしてユースラッシュに参加し、参加者一人一人の目標が達成される瞬間に立ち会えることは、自分の目標が達成された時とはまた違う、より大きな祝福を受けることができる素晴らしい経験であると感じました。

今回のユースラッシュでよく歌った讚美歌の歌詞で、「あなたの夢を与えてください。あなたの見ている景色を私にも見せてください」というフレーズがあります。信仰の歩みを進めて行く中で、私たちが抱くビジョンや私たちの願いが神様の御心にかなうものであるように祈りつつ神様にすべてゆだね、神様が望まれる光景をもっともっと見たいという神様に対する期待が更に大きくなった経験でした。



仲間と喜びあう田中野愛さん

神様の民

セブンスデーアドベンティスト教団伝道局青年部文書伝道部スタッフ

千葉キリスト教会 合宿サブリーダー 高橋 徹

千葉のユースラッシュで6回目の参加となりましたが、今回はスタッフ（千葉合宿サブリーダー）として参加させていただきました。

毎回のユースラッシュで祈りの力、神様の力を強く感じてきましたが、今回もまた更に強く感じることができました。1つのペアが70冊以上売ってくるように、ある人が3冊以上大争闘を売ってくるように、自信を一番持っていない人がその人の想像を超えた本を売ることができるようにと具体的にお祈りをしていきました。すると、1つのペアで86冊、1人が大争闘5冊、さらにもう帰りたいと言っていた子が50冊以上売ってきたりと、今回も神様は想像を大きく超えた経験を与えて下さいました。

初回のユースラッシュから参加してきましたが、1冊の大争闘がその日売れたら奇跡のように喜び、20冊以上売ってくる人が伝説のように思っていた頃を思い返すと、今回のユースラッシュのような光景はあの頃の自分には想像できなかったと思います。大争闘が売れて当たり前になり、初めての人も含めて多くの人が20冊以上売ってくるようになってくる光景にただ圧倒されるばかりでした。

何よりも高校生たちが「忙しいです」と言っただけで断られると、「再臨が近いのに」と悲しそうにつぶやく純粋な姿に胸を打たれました。自由時間が与えられると、自主的に学校でどう自分たちが証をするか、どう周りに影響を与えていくかをディスカッションする高校生たちは確かに神様の子でもでした。この日本に、神様に献身する神様の民を、神様は立てようとされているのだと思います。

神様は確かに、この日本でさらに大きな奇跡を見せようとしてくださっています。その働きは、青年たちだけでは決してできないものです。今後とも皆様のお祈りとご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



神様に感謝しながら食事をする高橋徹さん

Chiba Youth Rush

期 間 : 534;年6月6日～5:日#
 参加者 : 46名 #
 訪問軒数 : 57/93軒#
 販売冊数 : 4/::6冊 #
 トラクト : 57/333枚以上 #
 お祈り : 484件#
 参 加 : 高校生9名、大学生3名#
 大学院生1名#



6月、7月、8月の行事

◇ チャーチコンサート〔6月24日(日)、8月26日(日)〕

☆6月24日(日)「室内楽の楽しみ」 ☆開演:午後2:00 ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆8月26日(日)「美しきフルートの調べ」 ☆開演:午後2:00 ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆茶話会(場所は集会室):コンサート終了後は茶話会でお楽しみください。

☆コンサート・テーマにそった演奏や、ヘブンズコワイヤーの合唱をお楽しみください。皆様のお越しをお待ちしております。

◇ 夏期聖書学校

☆開催期間(予定):7月28日(土)7月29日(日)の1泊2日

☆会場及び宿泊場所:千葉キリスト教会 集会室(3階)

☆対象:幼児、小学生の皆様のご参加をお待ちしております。

☆内容(予定):楽しい催しを企画していますので、沢山のご参加をお待ちしております。

◇ 夏祭りサンセット・カフェ

☆日時(予定):7月28日(土) 5時30分～7時30分

☆開催場所:千葉キリスト教会 玄関前広場

☆地域の皆様、夏期聖書学校の参加者の皆様とご家族、シャローム若葉の皆様とご家族、千葉教会員とご家族の皆様と一緒に集い、ビンゴや流しそうめんて夏のひと時を楽しみましょう。

毎月の定期集会

◇ 菜食料理講習会

☆日時:毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時

☆場所:千葉キリスト教会 集会室 ☆参加費:500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時:毎月、第二(黙示録)、第四(ダニエル書)水曜日に開催します。午前10時～11時30分

☆場所:千葉キリスト教会集会室 ☆講師:千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時:1、3、5、7、9、11月の第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分～7時30分

☆場所:千葉キリスト教会 集会室☆7月28日(土)は夏祭りサンセット・カフェです。

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができると願っています。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

安息日学校(毎週土曜日)

☆賛美礼拝:午前9:15～9:25

☆聖書の学び:午前9:25～10:40

安息日礼拝(毎週土曜日)

☆千葉キリスト教会:午前11:00～12:00

☆シャローム若葉虹の家:午前9:30～10:10

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈祷会をしております。

【編集後記】「ぶどうの枝」2018年夏号をお届けします。6、7、8月も盛り沢山の行事を準備して皆様のお越しをお待ちしております。礼拝招待日や講演会は別途チラシ等でご案内します。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り:3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話:043(231)3620

FAX:043(231)1634

Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

<http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/>

★発行責任者:

磯部豊喜 牧師

★スタッフ:

酒井 闔 吉田 敏英

綿引 秀子